

クセになる。八尾の人、まち、自然、うまいもん

Yaomania

【ヤオマニア】Vol.14 2016年・夏号

川ものがたり・八尾

そうだったのか!?! ザ・大和川ストーリー
長瀬川・玉串川・恩智川・楠根川を歩く
「柏原舟」の平野川沿いを自転車ウォーク

ヤオマニアの横顔
清水翔太さん(シンガーソングライター)



Yaomania Vol.14 夏号 2016年5月20日発行 発行(社)八尾市観光協会 八尾市北本町2-1-11 トラブサ20号 072-922-9971 6226 編集 140B 定価0円 Printed in Japan

平成29年

福娘コンテスト

参加者募集!!

安井道頓ゆかりの八尾戎神社では、八尾の一層の発展と活性化を願い、福娘を募集しています。
「明るく元気で福福しい素敵な笑顔」で、八尾市産業の発展に寄与して頂きますように
ご応募お待ちしております。

開催日:平成28年11月5日(土) 午後2時スタート
開催場所:アリオ八尾1F レッドコートイベント会場

＜奉仕料50,000円+副賞多数＞



応募資格 18歳以上の女性(高校生・既婚者は除く)
平成29年1月7日(土)・8日(日)、2月3日(金)の10時から
23時までと表敬訪問(12月予定)に奉仕可能な方。
その他任意での参加行事あります。

応募方法 市販の履歴書又は、応募用紙(8月初頃公式HP
又はチラシにてご案内予定)に所定事項、自己PRを明記し、
全身及び上半身の写真(3ヶ月以内に撮影)を添付の上、
八尾戎神社までご郵送、メールもしくは、ご持参ください。
なお、応募書類・応募写真は返却致しませんので予めご了承下さい。

受付場所・お問合せ先

八尾戎神社(八尾天満宮内)社務所
TEL:072-922-3558

◎選考方法等詳しくは、八尾天満宮・八尾戎神社公式ホームページで
<http://www.yaotenmangu.com>

八尾天満宮・八尾戎神社 検索

主催:八尾戎神社・八尾戎福娘コンテスト実行委員会

福娘コンテストにご協賛頂けるスポンサー企業を募集しています!

名刺・封筒・チラシ・パンフレット・各種伝票
会社案内からホームページ(リニューアル)までの
デザイン制作・印刷をご提案いたします!

創業明治23年(1890年)

株式会社 **ワシミ印刷所**

〒581-0003 大阪府八尾市本町3-11-29
TEL.072-922-2101 / FAX.072-992-2188

八尾の「大河」 驚きの1万年史。

「大和川以外に、大河ってどこにあんの?」。たしかに玉串川や長瀬川は「せせらぎ」だし、恩智川や楠根川、平野川にしても、大きな流れではない。でも、それは最近300年の話。「八尾の歴史は川の歴史」だったのです。まずは、1万年ほど時計を巻き戻して振り返ってみましょう。

文中島淳

「縄文・弥生時代」 八尾全域が陸地化してまだ2千年。

紀元前1万年ぐらまでは陸地だった河内平野は、海面がどんどん高くなって「河内湾」の底に沈み、八尾の大半が海という時期があった。なんばや梅田の繁華街が海の底だった頃、上町台地は細長い半島のようになり、大阪城の辺りは岬になっていた。やがて淀川と大和川が運ぶ土砂で河内湾の南北両岸が次第に陸地になり、湾の出口も狭くなって淡水の「河内湖」が生まれる。しかし川はますます活発に土砂を運んで、全部陸地になった。



約5500年前、「縄文海進」で河内湾が最大化する。ご覧のとおり八尾・久宝寺・山本あたりはすべて海面下だった



約2100年前、八尾でも稲作が始まった頃。河内湖の対岸を結ぶ船がこの頃には活発に行き交っていた

「弥生・江戸時代前半」 大和川は天使と悪魔、両方の顔!

大和川の土砂が三角州を形成していくと、稲作に適した土地が至るところに生まれ、この地で米作りが本格的に始まった。当時の八尾は、大和川がふた手に分岐した久宝寺川(現・長瀬川)と玉串川(現・玉串川)が中央を縦断する「大河のまち」。八尾の市街地から久宝寺へ、あるいは高安へ行くのに、大和川のような大きな川を渡らねばならないことを想像するだけで、現在とは全く違った風景だったはずだ。徳川時代になると、大和川から大坂への水運による物流が本格化する。上流の亀瀬や石川と大坂を結ぶ「剣先船」が食料や燃料、肥料などを運んだ。しかし、大和川が淀川(現在の大河)と合流する東側は大阪平野で最も土が低く、淀川へ水が勢いよく流れない。それで千年以上にわたって堤防がたびたび決壊し、流域が大被害に見舞われることも多々あった。



『大坂夏の陣図(若江合戦図)』より。高安の麓に陣を敷いた赤備えの井伊直孝軍(左)が高い玉串川の堤防を越えて木村重成の軍に攻め込む(彦根城博物館蔵)。「川を越える」のは実に大儀でした



現在の大河川。久宝寺寺内町が強固だったのは、八尾側から久宝寺川を渡らねば行けなかったという理由もある

「江戸時代中期」 世紀の「付替え」ビッグプロジェクト。



付替え前年(1703)に作られた『元禄十六年大和川河内國志紀郡字築留(つきとめ)ヨリ末流泉州堺裏江川違(かわたがえ)圖』。久宝寺川と玉串川が大河であったことが分かる。付替え後の大和川を当時は「川違新川」と呼んだ(昭和30年発行『治水の誇り』より)

久宝寺川と玉串川は、江戸幕府が発して100年の間に8回以上も大被害に見舞われた。地形の理由に加え、大和川の上流で樹木が伐採され根元まで抜かれていったことが原因で、木々が雨水をいったん貯めて徐々に川に流す力が弱まった。そして大和川に流れ込んだ土砂が下流に行くほど川底を押し上げ、周りの土地より高くなる「天井川」となり、水害リスクが高まった。「大和川を西に向け、堺と住吉の間の海に流れ込むように付替えねば」と流域の農民が中心になって立ち上がり、初の付替え検分が行われたのは万治3年(1660)のこと。後に河内国河

川に溜まった土砂の除去、川中のヨシの刈り取りをすれば付替えの必要なし」と判断。訴えは取り下げられる。ところが元禄14年(1701)の洪水で、玉串川流域の今米村では一粒の米も収穫できないほどの被害を受けたため幕府が改めて被害調査をし、その2年後ようやく付替えの決定が下る。付替え工事は元禄17年(1704)の2月27日開始。幕府、岸和田藩、三田藩、明石藩、姫路藩が場所を分担して請け負い、両側に堤防を築き、川底をできるだけ掘らずに最小限に抑えたため、当初は3年の予定がわずか8カ月足らずの10月13日に完了する。

「江戸時代後期・明治」 「新田」と大坂を舟で結ぶ井路川。

二つの大河を付替えて、八尾市域に9つの新田(二俣・柏村・山本・天王寺屋・安中・大信寺・顕証寺・三津村・太田)が誕生。水やりが少なくてよいサツマイモ、大根、綿花などの栽培に適していた。河内木綿の隆盛は大和川の付替えがなかったらありえなかった。そして八尾から大坂や柏原への水運が不便になったため、二つの川跡の新田に灌漑水路の「井路川」を造り、



表紙の「久宝寺船着場」を逆から。燈籠は慶応2年(1866)築造

「昭和・平成」 「汚い大和川」のタイトル、返上。

高度成長期に「水質ワースト1」の悪評高かった大和川は、下水道の普及や周辺住民による生活排水改善の取り組みで水質が格段に改善され、最近ではアユが帰ってくるまでになった。その現れが左コラムの「わんど」だ。次頁からは現在の八尾にある5つの川べりを紹介しているが、随所に「かつての大河の面影」が残っているの、ぜひその目で確かめてほしい。

川とふれあう地域の宝が育つ 大和川わんど



わんど(湾処)とは、長年の水圧によって造られた、川の主流とつながりを持つ池のような地形のこと。淀川のわんどでは天然記念物のイタセンバラが息づくなど、独自の生態系が形成される場合が多い。環境学習の一環として人工的に造成するケースが増え、八尾市を流れる大和川流域では2013年に「大和川わんど」が整備された。地引網体験や水生生物観察会など、川とふれあうレクリエーションの場として活用されている。鯉やエビなど24種の水生生物が確認される豊かな大和川にもっと親しみませんか。

長瀬川

かつては大河（久宝寺川・P2）であった長瀬川。親水スポット「二俣」の情緒あふれる光景から始まったと思うと、しばらく工場地帯を縫うようにしてぐんと川幅が狭くなる。JR八尾駅に近づくと周辺の植栽が豊かになり、川の表情も輝いているように見えるから不思議だ。八尾高校にたどり着くと静かなせせらぎになり、川もお利口さんの様相。この辺りから桜の植樹が目立ち、久宝寺船着場から先は圧倒的な桜並木が人々を誘い込む。歩く者に時間旅行をさせるような変幻自在な川だ。

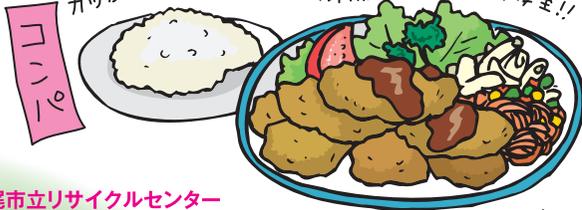
イラスト&マップ 井上ミル
取材：文 しまむあつこ



アカミミガメも のんびり 甲ろ干し〜

もはや長瀬川のシンボル!? 生命力いばいの鯉たち

「一口カツ」どころか 三口以上はあうかという カツが6枚も載ったボリューム満点ランチ 満腹必至!! 川沿いを歩いて 腹ごなし!!



その昔はこのあたりでも動力として 水車が活躍していた とのこと。



このあたり 疎水の隈園が下り木 五中川 (このあたり疎水の隈園が下り木 五中川) 復元された水車が。(柏原市にありマス) 外環状線

いつもこのあたりを 散策し 自然観察しているという岸部さん



5月は鯉の繁殖期。 熱いよく跳ねる姿はまさに本物の鯉のぼりです



エサくれー

長瀬川(総延長14,175m)

大和川を水源に八尾の二俣から北西に流れる用排水路(市内延長5.318m)。第二寝屋川～寝屋川～大川に合流。護岸の老朽化により水質が悪化したが、平成5年(1993)以降、護岸整備と地元住民の清掃活動により改善。農水省「疎水百選」に選出。

本町橋食堂

人気の天ぷらは1コ60円。種類豊富!! どれにしようか迷うー!!



川こそ「循環」のシンボルだ。 八尾市立リサイクルセンター学習プラザ「めぐる」

一般家庭ごみの分別工場の見学や、布ぞうり・エコバッグなどの工房教室(受講無料)、フリーマーケット(出店無料)、講座など、暮らしと環境について楽しく学べる施設。「不要のシートで素敵な布ぞうりができるなんて、トクした気分」と利用者も語る。●八尾市曙町2-11 ☎072-994-0564 9:00～17:00 月曜日

ウェルカム体質・八尾の権化か。 喫茶・軽食 コンパ

お腹いっぱい食べてほしいという店主の願いからランチはすべて大盛り。「30年以上のつきあい。昔からの量やけど、だんだん完食がしんどくなった(笑)」と常連さんのコメントに愛を感じる。噂を聞いてやって来るお客さんも多い。●八尾市天王寺屋7-4 ☎072-949-6477 8:30～21:00 木曜日

私の長瀬川もがたり ●犬の散歩は日課で、この桜が好きでした。愛犬亡き後は孫たちと鯉を見に行くのが楽しみ(植松町・H.A) ●昔は清流だったそうだけど、犬の小さい頃は汚染物質で時間ごとに水の色が変わったとか。鯉が泳ぐまでに戻ってうれしい(植松町・A.T) ●パンを鯉にあげると孫が大喜び。長時間飽きずに見ています(相生町・T.K)



松吉

昔は長瀬川で魚とりや川遊びしたもんや。戦争の時には橋の下で空襲をやり過ごしたりな



天ぷら定食(1,000円) であかい穴子にエビ2尾、お味噌汁には鰻が丸1匹 INしているという豪華さ!!

75歳を過ぎておられるようには見えない!! 松吉の松本さん。

おにぎりとお総菜にファン増殖中 心花堂

ロケーションに惚れこみ開業。「予定より10年早かったんですが(笑)この川沿いを逃したくなかった」と八橋俊子さん。日替わりでおにぎり(130円～)と食べきりサイズのお惣菜(100円～)が数種並び、地域のお年寄りや男性に好評だ。みつ豆や芋ようかんなどの昔おやつが並ぶことも。●八尾市本町4-9-12 ☎080-5708-9464 11:30～17:00頃 不定休

イキの良さとおボリュームに脱帽。 松吉

和歌山の天然魚のみを扱う天丼の店。店主の松本圭造さんは船上から珍しい魚が揚がったという電話があれば漁港に駆けつける。大型水槽の魚介類と、丼に盛られた天ぷらのボリュームに二度驚く。「そのほうがむしろ楽しいがな」という戦中生まれの松本さんこそ、一番イキがいいのかも。●八尾市東久宝寺1-1-3 ☎072-991-1954 11:00～14:00、夜は予約のみ(魚料理) 日曜休

名だたる古橋を冠した、ひとびと食堂。 本町橋食堂

定食はなく、好きなおかず(150円～)を選んで食べる昔ながらのスタイル。名物の天ぷらは3つ180円。歴史的な船着場にふさわしいレトロな大衆食堂に安らぎを感じるお客さんが多い。●八尾市本町3-11-22 ☎072-922-3031 11:00～14:30 17:00～19:30 日・祝休

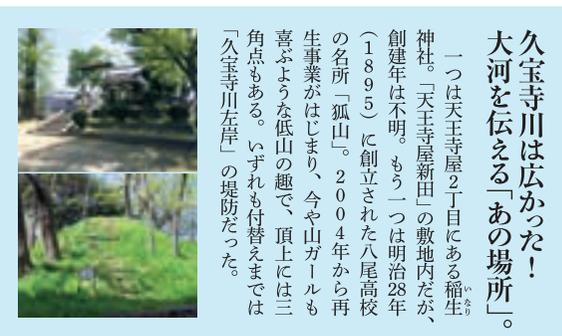
長瀬川と駅前通りの十字路に立つ。 杉安書店

昭和10年(1935)創業。川が目印の町の本屋さんとして地元で親しまれている。土地柄に合った書籍や話題本のセレクトが光る杉安素子さん。「川沿いの植物に季節の移ろいを感じます。これからはアジサイが楽しみ」と目を細めた。●八尾市安中町4-3-16 ☎072-992-6638 9:00～20:00 日曜休

表紙「久宝寺船着場」

街を歩くと、川や用水路の多さに気づかされます。長瀬川に架かる本町橋のたもとには、かつて船着場がありました。船は明治の初めまで大阪との間を行き来し、物資を運ぶ重要な役割を担っていました。今は川沿いに桜などの木々が育ち、遊歩道などが整備され、人びとの憩いの場所となっています。緩やかな川の流れを見ていると、八尾の人にとってここは安らげる、大切な場所にならないのだと思いました。(須飼秀和)

すがい・ひでかず 1977年明石市出身。日本の原風景や人びとの営みに映る郷愁をテーマに描く。著書に『私だけのふるさと』(岩波書店)、『うなぎのうーちゃんだいぼうけん』(福音館書店)等。毎日新聞朝刊(兵庫版)にも連載。P15も必見。



久宝寺川は広かった! 大河を伝える「あの場所」。

一つは天王寺屋2丁目にある稲生神社。天王寺屋新田の敷地内だが、創建年は不明。もう一つは明治28年(1895)に創立された八尾高校の名所「狐山」。2004年から再生事業がはじまり、今や山ガールも喜ぶような低山の趣で、頂上には三角点もある。いずれも付替えまでは「久宝寺川左岸」の堤防だった。

玉串川

「河内」の好感度アップに貢献する桜並木で知られる玉串川。川沿いにはカフェやギャラリー、バー、ブティック等々、横文字ショップが点在し、水辺の風景に溶け込んでいる。同じ「元・大和川」でも長瀬川の七変化的景色の移り変わりとは趣がぜんぜん違う。それが山本の力か。上流の曙川東や下流の福万寺には田畑が残り、農業用水の仕事もしつかりこなす働き者だ。



石積みの護岸と桜並木が続く遊歩道。幼稚園児も楽し気に散歩。



おゆば 前の足湯は誰でも気軽に利用可。そばでは農産物の青空市が開かれてることも。



ウチは八尾でも数軒しかないアサヒビール認の「うまい樽生ビールが飲める店!!」



店頭にはホットドッグ屋台が出ることも。生ビールもテイクアウト可!!

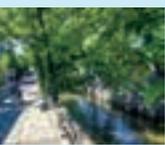


桜が育つと、夏は日陰にもなる。緑がおいしそう!

山本の「川ものがたり」は汚い川を何とかしようとして桜を植樹した住民の物語だ。

昭和50年(1975)に八尾を去るまで四半世紀近く天台院(西山本町)の住職を務めた直木賞作家の今東光は、玉串川の風景を小説でこき下ろした。「底には泥が来る無気味な紅色に染まってるチヨロチヨロと流れているきりだ(昭和40年「水なき川」より)。

当時の山本町会長は、これに対して「川を美しく緑あふれる町にしよう」と呼び掛け、住民から寄付を募る。多くの賛同を得てソメイヨシノの若木120本の植樹が始まった。昭和40年(1965)1月のことだ。これに続いて大和町会や青葉町の住民も桜を植樹した(現住所はいずれも山本町北。町会全員での奉仕が実り、夏には根が定着。翌年(1966)春には早くも花が咲き、山本小学校から東大阪市境の約1kmに桜並木が誕生する。現在、玉串川の桜並木は1000本を超え、近鉄河内山本駅から北側2kmと南側3kmの川沿いを彩る春の風物詩となったが、周辺都市からも花見客が訪れて華やぐ玉串川の景色を、今東光が生きていた何と書くだろうか。



私の玉串川ものがたり ●美好橋は彼氏との待ち合わせ場所でした(永畑町・N.S) ●八尾市北にいた頃はほとんど毎朝、1時間ほどウォーキング。心身がリフレッシュ、前向きな気分になりましたね(北本町・Y.A) ●生後まもない長男を撮ろうしたら、ビデオカメラのバッテリーが落下! ずぶ濡れになりながら撮影したのが懐かしい(恩智中町・M.H)



ニヤンタジスタ
現在7匹+デブー
特の子猫が在店。
いずれも
お利口な業猫の

ブルボン
愛想よき美猫
マシムロ
とハハ
マシムロ

ブルボンのランチサンド。
天然酵母食パンの
サンドイッチにドリンク、
サラダ、スープに
デザートまで
付いて900円!!

川に面した
テラス席では
オトナ女子が
優雅にランチ中。

このあたり、バンチャや腰かけられる石段もあり、人々が憩う。カモもいるよ〜。

玉串川(総延長13,435m)
八尾の二俣で長瀬川と袂を分かち、南北に流れる用排水路(市内延長6,115m)で第二寝屋川に合流。生活雑排水やごみ投棄等で汚染がひどかったが、昭和40年(1965)頃から地元住民による桜の植樹をきっかけに熱心な清掃活動が行われ、「大阪みどりの百選」に選ばれる自然名所に。

茶米古道
ハナ島の
ココナツタルト
を再現!!
古造タルト



川沿いのファンタジスタとは猫のこと?
Cat Café ニヤンタジスタ
地元出身の荒井弥信さんのお母さんの近くで癒しのスペースを、と昨年オープン。ヨーロッパのプチホテル風の内装に、まったく育った猫たちの身のこなしがよく似合う。窓からの川風景にもなごみます。60分1,000円(ドリンク付)
●八尾市山本町1-6-2 ☎072-943-3384 10:00~最終受付19:00(日・祝~18:00) 月曜休

「川を眺めてランチ&ティー」の先駆け。
カフェ・ブルボン
「玉串川沿いの開放感」というものを山本住人のみならず他所の人間にも教えてくれた貢献度大の店。駅から近いのもうれしいし、店内でゆったりくつろぐ人々を「いいなあ」としみじみ。●八尾市山本町2-4-20 ☎072-991-3400 9:00~18:00 日・祝休

アジアンスイーツはこの店が発信源。
茶米古道
午後の早い時間に閉まるのが山本ビクターにはツライけど、ここのお菓子とお茶で癒やされた人は3ヶたでは済まない。けれど店主の竹本清香さんは涼しい顔で、「泳いでいる魚を見ている子どもたちの表情に癒されますね」と。
●八尾市山本町1-5-3 ☎072-926-9938 9:30~14:00 土・日・祝休

玉串川ビュー人気を「ブルボン」と二分。
カフェ O2
「ヤマキュウ(山本球場)そばのカフェ」として親しまれる。午後になると日差しが入らないのがこれからの季節にはうれしい。「いつの季節も玉串川は素敵な風景を作ってくれます」と店主の岡田悦二さん。●八尾市山本町南6-12-16 ☎072-999-3823 8:00~18:00 木曜休

散策のあと、いいお湯あります。
源気温泉 八尾おゆば
玉串川を眺めながら天然温泉の足湯(無料)でほっこり気分と嬉しいサービス。でも露天風呂に浸かれば、夕日を浴びて輝く高安連山をながめて「はあ〜」の楽しみも待っている。
●八尾市柏村町2-65-1 ☎072-990-0020 10:00~最終受付24:00 無休

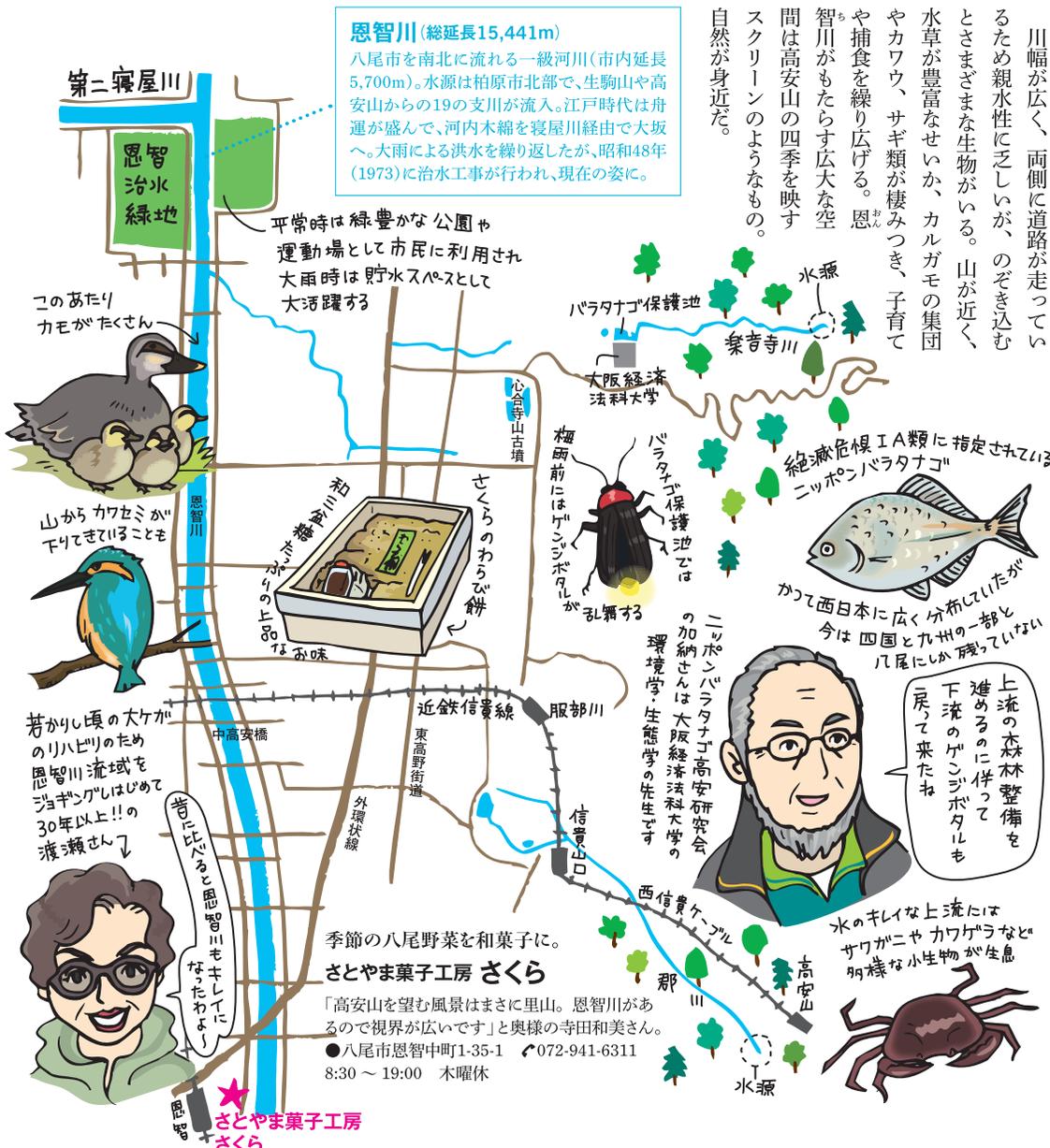
川沿いダブル、とはうらやましい。
AMERICAN CAFE&BAR RIVER SIDE
酒店の2代目、植田昌弘さんが6年前に洋風居酒屋を併設した際に、店の北側に玉串川の支流があるのでこの店名にした。サーバーを徹底管理し、生ビール(400円~)の泡がきめ細やかと大人気。●八尾市山本高安町2-9-24 ☎072-922-0158 17:00~23:00 月曜・第3日曜休

恩智川

川幅が広く、両側に道路が走っているため親水性に乏しいが、のどぎ込むとさまざまな生物がいる。山が近く水草が豊富なせいか、カルガモの集団やカワウ、サギ類が棲みつき、子育てや捕食を繰り返す。恩智川がもたらす広大な空間は高安山の四季を映すスクリーンのようなもの。自然が身近だ。

恩智川(総延長15,441m)

八尾市を南北に流れる一級河川(市内延長5,700m)。水源は柏原市北部で、生駒山や高安山からの19の支川が流入。江戸時代は舟運が盛んで、河内木綿を寝屋川経由で大坂へ。大雨による洪水を繰り返したが、昭和48年(1973)に治水工事が行われ、現在の姿に。



楠根川(総延長4,698m)

八尾市内を南東から北西に流れる一級河川(市内延長4,447m)。八尾木4丁目付近が水源で第二寝屋川に合流。恩智川の改修に伴い、楠根川も拡張工事を実施。昭和46年(1971)からはジグザグだった川筋の直線化が18年かけて行われ、かつての流路は「旧楠根川緑地」として6ブロックの遊歩道や親水スポットに変身。

街なかからいきなり川が始まり、しばらくは道路の中央分離帯を流れる用水路の趣だが、浅瀬のクロージな場所でも鯉やサギが生息する。途中暗渠になるが近鉄の高架を越えた途端に川らしい存在感にあふれ、ここが一級河川であることを思い出す。川沿いの店も、それにふさわしい個性派揃いだ。

楠根川

ひょうたんの泰地せん
楠根川も付け替え前はよく増水してね。湯水して魚が店内まで入って来たことも

旧楠根川緑地
揚げもの屋 ひょうたん

アリオ八尾

しっかりめの味付けのコロッケは おやつにも、おつまみにも、もちんあかずに!!

揚げたてサクワリを川沿いのパンチでパクリくのもオツなもの

昼間は正直、川のこと忘れてますか(笑)、夜はせせらぎの音が聞こえて悪くないですよ

揚げたてサクワリを川沿いのパンチでパクリくのもオツなもの

山からカワセミが下りてきていることも

餅

若かり頃の大ケガのりハビリのため恩智川流域をジョギングし始めて30年以上!!の渡瀬さん

昔に比べると恩智川もキレイになたわよ

まぐろや
浮田さん

季節はアルビノアフリカツメガエルである。卵前はまだない

店頭ではまぐろのつくねフライ(160円)などユニークな揚げものも売っています。

店の片すみにはキモカワな看板(?)ガエル

白和えなどおそうぜいも充実

ソフトクリームも

ひょうたんのハムカツ、決して小さくはないか? 観光協会の幅下さんが食べてると小さく見えます

市立総合体育館

中田交差点

柏村橋

ざるよせ豆腐(416円)が人気。天然のりにがり北海道産大豆を使用。

大豆ギャラリー 河内庵

大豆ギャラリー 河内庵

アツアツを楠根川の緑地で食べたい。
揚げもの屋 ひょうたん
昭和40年(1965)創業。川のほとりの小さな店だが、コロッケや唐揚げが「揚げものグランプリ」で金賞に輝くなど、実力は全国区。お客さんの切れ目が無いのでフライヤーはフル回転だ。●八尾市萱振町3-118 ☎072-997-1245 10:30 ~ 19:00 水曜・第3木曜休

出来立てのまぐろ丼の新鮮さ。
まぐろや
一番人気のマグロをはじめ、季節の鮮魚や揚げもの、珍しいクジラ肉など幅広い品揃えがお客さんに喜ばれている。「朝晩は川のせせらぎが聞こえるんです。水の流れる音、気に入っています」(浮田理恵さん) ●八尾市八尾木北3-124-10 ☎072-996-0333 10:00 ~ 18:30 日・祝休

人寄せパンダならぬ手造り豆腐。
大豆ギャラリー 河内庵
国産大豆、天然のりにがりによる昔ながらの豆腐で有名。バラエティ豆腐やスイーツにも力を入れていて、遠方からも豆腐ファンが。2年前に川沿いから川が見える現在地に移動。メダカの入った水鉢群が水辺の癒しを演出している。●八尾市八尾木北5-119 ☎072-993-0221 9:30 ~ 18:30 日曜休

出会ってから旅立つまで、カルガモの66日間を記録。
高安の里山写真で知られる牧江良祐さんが、恩智川で見つけたカルガモの親子を撮影。1冊の写真集にまとめた。「高安山のため池で記録していたカルガモがいなくなり、そのことを銭湯のおかみさんに話すと『恩智川にもいるよ』と教えてもらいました。2013年5月26日にカルガモの親子を発見。彼らが旅立つまでの66日間、早朝・昼・夕方と日に3回欠かさず、カメラを持って恩智川を探し歩いたんです。天候が荒れると川の状態が変化するため、そんな日ほどいそいそと出かけましたね(笑)。お連れ合いの葉邑光子さんは2組のカルガモ親子の日常を観察し、愛情あふれる文章を綴った。「懸命に10羽のヒナを守り、育てる母ガモはとても健気で、毎日が感動でした。恩智川で繰り返される命の姿を知ってほしいですね」(光子さん)



1 右手の鉄橋は近鉄道明寺線。対岸の緑の塔の辺りが青地樋
2 青地樋から流れる平野川の源流。右手の道は国道25号線
3 川面が近い、イコール流域住民の「生活」とも近い
4 車道を経由し、「柏原舟ふなだまり跡地」の碑がある公園へ
5 「了意川」らしいせせらぎ風景。三田家住宅の黒塀が緑に映える
6 築250年の三田家住宅（重文）。人家なので入れないが、柏原市教育委員会の案内板がある
7 弓削町と西弓削の間を走る。川は人工的で、空港も近い
8 自衛隊八尾駐屯地を抜けると、平野川が復活。西日が強烈！
9 平成橋から東を見る。まっすぐな平野川もここで終了

平野川

一級河川。柏原で生まれた平野川は八尾市内を流れた後、平野区・生野区・東成区・城東区を経て第二寝屋川と合流、大阪城ホールの前を通過して大川と合流する。総延長17.375km。八尾市内を流れる距離は7,200mと結構長い。



原舟乗りの気持ちも少しは味わえる。自転車約8.6kmは決して長くはないが、平野川を一度走ったら川に対する見方がきつと変わるはずだ。

が集まるのではないかと、川はさらに平野区を抜け、第二寝屋川を指す。小さな流れが幼年期、少年期、青年期を経て、堂々たる大人になるように立ちあがります。

が戻るのではないかと、川はさらに平野区を抜け、第二寝屋川を指す。小さな流れが幼年期、少年期、青年期を経て、堂々たる大人になるように立ちあがります。

イラストは運行を終了した「阪和貨物線」の鉄橋だ。昭和の頃なら散歩中の親子が「来た！」と言って川を越える列車をうっとりとして観ていたことだろう。ここを特急も走ったし、小学校の修学旅行で筆者が乗った貸切列車もこの線経由で伊勢まで行った。2009年に廃線となったが、今列車が走ったら全国から鉄ちゃん

「了意川」の船だまり風景。「平野川が分かれる瞬間を見たい」快晴の中、大和川の南岸に向かい対岸を眺めた。左前方にはるか大阪のビル群、右手は大和川上流、背後は二上山や金剛山。絶景である。分岐点は河川管理の緑色の塔が立っている程度しか判別できないが、ここが平野川のはじまり「青地樋」だ。堤防の反対側に出ると、源流がゆるゆると。周囲は新しい建物も見受けられるが、「水運の町」の匂いがする。そこからJR柏原駅前に出ると急に、現代の「水路」になって興奮させるが、「柏原舟ふなだまり跡地」に来ると再び川沿いの細い道が出迎えてくれた。ここが大坂への物流の出発点。柏原では平野川筋に最初に舟を運送するとして川を掘り開いた安井了意の名を取って「了意川」と呼ぶ。右岸の黒塀は重要文化財の「三田家住宅」。明和3年（1766）から同5年にかけて建てられた、干鰯や油粕を柏原舟で運んで栄えた肥料商の屋敷だ。八尾市東本町にある茅葺屋根の和菓子店「與兵衛桃林堂」も18世紀の建物だが、こちらは本瓦葺き。「港町の商家」の風情がうつつらと漂う。そこから少しだけせせらぎの左岸を走り、国道25号線「本郷橋北」からは八尾市に入る。



図版柏原船の図（『河内鑑名所記』より）

かつて「柏原舟」が走った平野川を、源流から八尾の西端まで自転車で下る。17世紀前半、剣先船（P3）が大和川を往来する前から平野川を「柏原舟」が走り、流域の生活を潤していた。長瀬川、玉串川あたりに比べると現在は「地味」な感じの川だが、鉄道や自動車が出る以前は「最先端物流ハブ」だったのだ。お隣の柏原市からスタート。取材：文・写真：中島淳

直線水路、のち連続S字。住宅街の中、左手・柏原市、右手・八尾市の道を西へ。川面から離れて風情が失せたのが残念で、ここから八尾空港の先までは淡白で人工的な直線の水路だ。元々はそうではなかったが、空港造成の際に川の流れも変えている。平野川はいったん暗渠に潜ったあとで復活。川を隔てて、空港を見ながら飛行機と一緒に走る。平成橋でまっすぐな川にも別れを告げ、了意橋の前後には休み場もあちこちにあつて、ふたたび親水モードに。近くに住む、山村流土方舞師範の山村若静和さんは「小学校の頃

「廃線の鉄橋」の下をゆく。中央環状線の西側はのんびりした風景に。左岸から右岸に渡る住所が大阪市平野区になったりする。ハ

は川面に降りて、みんなでザリガニを釣って遊んでました。エサはちくわとか、よつちゃんイカ」とか」と語っていた。ザリガニ釣りの子どもはいなかったが、家が近所だった天童よしみさんもきつこの川で遊んだことだろう。近くの樟本神社や跡部神社などの案内プレートもある。そして「平野川の本領はここから」とでも言いたげに、急にS字S字の連続が始まった。了意橋から中央環状線までは一部を除いてずっと川沿いの専用道。学校や工場を縫うように蛇行する川に沿って走る。歩くとき長い距離だが、自転車はけっこう楽しい。江戸時代の柏原舟乗りも、取り回しのテクニクを發揮する、腕の見せどころだっただろう。

17 八尾市内の西端、下竹瀝橋。柏原舟はさらに大坂へ走る
16 鉄橋にはもう何も走らないけど、これがなくなるときっと寂しい
15 川幅が広いと、シラサギくんもエサを探しやすいのかもしれない
14 竹瀝歩道橋の対岸は大阪市平野区の新家（しんけ）天満宮
13 平安時代の凡河内躬恒（おとしこうちのみつね）の歌碑
12 中央環状線を過ぎると八尾市の西端、竹瀝（たけふち）エリア
11 S字の連続。右岸か左岸に必ず人や自転車の専用道がある
10 安井了意の名前を冠した「了意橋」がコースの中間点ぐらい



八尾レトロ—昨日を語る風景

学ぶ「場」がなければ 身銭を切ってつきた 人びとの足跡。

三堂学舎址の碑 (東本町)

●八尾市東本町3-2-22



石碑からすぐのカフェ「KUKURU」も楽器や語学などいろんな教室やライブを開催するし、近くの和菓子屋「與兵衛桃林堂」も落語や河内音頭の催しが盛ん。界限には「場」づくりのDNAが潜んでいる

私塾「三堂学舎」が創設されたのは明治11年(1878)のこと。京都で池内大学や貫名海屋に師事した儒学者の吉川樞里(武次郎)が開いた。明治に入り各地で小学校が生まれ、教育が変わりゆく時代だった。それ以前の、かつて寺子屋で学んだだけの若者にも一段レ

ベルの高い授業を自分が地元で、と志を抱いたのであろう。

「三堂学舎址」の石碑の立つ場所は旧家で、吉川の自宅ではない。彼の意に賛同したこの家の当主や周囲の人びとが吉川の背中を押し、場所などを提供したのではない。しっかりと塾がなければ、数百人の門下生を輩出することは不可能だ。資産や社会的影響力を持つ人が、志のある教育者に対して「背中を押し、支えつづける」ネットワークがこの頃の八尾には生きていたのである。

当時の八尾は、価格と物量で河内木綿を圧倒する欧米の綿製品が上陸する頃であり、水運が鉄道に取って代わられる頃でもあり、大きな「麥わり目」に立っていた。市井の人間を相手にした私塾は教育の裾野を広げ、それが明治28年(1895)の府立第三尋常中学校(現・八尾高)の創設やブラシなどの新産業開拓につながっていったのではないかと想像する。

一国の政策や経済に影響力を持つ人間がタックスヘイブンに資産を移している現状を聞く度に「あゝ」と幻滅するばかりだが、吉川樞里や三堂学舎の関係者が生きていたら「資産を独り占めする手前勝手な人間をつくらないことこそが、教育の目的だ」と一喝することだろう。

取材文・写真 中島淳



塀は全体が右側のような土壁であったが、昭和36年(1961)の第二室戸台風で壊れ、石碑ともども補強するためにコンクリートの塀と一体化した。ちょっと見ではなかなか気づかない

僕

に校歌制作のお話が来たという。とは、僕にしか出来ないもの、僕だから作れるものを求められているのかな……と思ったんです。歴史ある2つの小学校が閉校になって、その歴史の重さに負けない校歌が自分に作れるのであればやるべきだと思ったので、なんとか絶対に素晴らしいものに仕上げたいと、今回お引き受けしました。

生みの苦しみが続いた先に。

制作は相当長くかかりました。基本、自分の曲は1日で作るのですが、今回は6カ月もかかってしまっ。僕は当初、2、3カ月で第1稿をお送りしますとお返事したのですが、納得のいくものがなかなか出来ず、どれももう一つしっくりこない。いよいよギリギリになってきて「もう、八尾に行って、学校や周りを見せてもらおうしかない」と担当の方に連絡して、段取りしました。

ところが八尾に向かうその日の朝、ぼつと曲が浮かんできました。自分でもすごい良い曲だなんて。納得のいくものがやっと生まれた瞬間でした。



4月8日の開校式で、新しい校歌の作詞・作曲者として来賓のスピーチ。「節目節目で、ここに聴きに來たくります。それぐらい、僕にとっても思い入れがある曲なんです」

子どもの目線と大人の思い。

子どもたちが歌うにはけっこう難しいかな……最初はちょっと不安だったんですが、開校式ではみんな上手に歌ってくれてよかったです。自分の作ったものを子どもたちが歌ってくれる機会はそうないと思うので、やっぱりうれしいですね。曲を考えている最中は子ども時代を思い返していました。どういうことを考えて、どういう道を歩いて、どういう友達がい……。基本的に校歌って、子どもたちの目線で書かれると思うんですけど、僕はそういう彼らを感じる大人たちの気持ちも書きたかった。だから今の自分が、子どもの自分に言ってあげたい言葉を一つひとつ書いていきました。

僕自身、以前は校歌というものが難し



ヤオマニアの横顔

シンガーソングライター

清水翔太さん

「その曲は、光のように降りてきたんです」

この4月に開校した八尾市立高安小学校・中学校の一体校は、明治5年(1872)創立の中高安小学校と明治6年創立の北高安小学校の2校を統合した形で創立。バックは高安連山

くてもう一つ分からなかったたので、既存の「校歌っぽい」言葉を使うよりは、この時代に合った、子どもたちが感情移入できる言葉で書きたいと思ったのです。10年経っても、50年経っても、1000年経っても、その時の子どもたち、そして

しみず・しよた 1989年八尾市生まれ。作詞・作曲・アレンジまでこなす天才肌のシンガーソングライター。デビュー前からNYアポロシアターの舞台を踏み、2008年シングル「HOME」でデビュー。2年ぶりのオリジナルアルバム『PROUD』を2016年3月30日にリリース。全国ツアー「清水翔太LIVE TOUR 2016“PROUD”」が5月からスタートする。

取材文・豊田亜紀子 写真 川隅知明

年老いてからも聴きた。

僕は最初、刑部小学校に通っていたんです。JR八尾駅よりは高安寄りの学校だったので、かなり自然が多い場所で暮らしてました。ここぐらいの感じが良いですよ、自然と、便利さと両方の距離感が。子どもたちには、自分の感性や自由な発想を自分で認めてあげてほしい。年齢を重ねるとできなくなる発想って必ずあるから、それを周りが否定しても自分だけは信じ続けてほしいと思います。そういうキラキラした気持ちを、「光」という校歌の題名に表現しました。機会があれば、自分のファンにも聴いてもらいたいんです。テレビでもいいし、八尾で音楽フェスができればそこで子どもたちが歌ってもらいたいかな。小学生のキーに合わせて作ったので、僕にはキーが高いんですよ。だから、ちょっと歌にくいんですよ(笑)。

お好み焼き・各駅の顔じまん

道草 (近鉄恩智駅)

「改札を出ればソースの匂いがぷんと。ここを素通りするのは至難の業です」

●推薦人・西山美代子さん 堺川東在住の会社員。「月2、3回通っています。女性ひとりでも気軽に入れる雰囲気がいいですね」

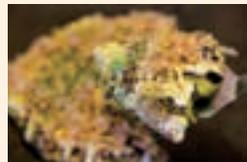
「弟夫婦が始めた店ですが、すぐに体調を崩したため、主婦だった私が代わりに。研究のため、ずいぶん食べ歩きをしましたよ」と店主の畑中敏子さん(右)と喜代子さん



昭

和47年(1972)に恩智駅が高架になりショッピングセンターが出来た時から、ほかのお店は変わってもここだけはお好み焼きの暖簾を守り続けています。友人と一緒のときはテーブル、自分一人だとたいい大きなカウンターに座ります。お好み焼きの見えるのが好き。プロの手つきで惚れ惚れするんじゃないですか。「道草」さんではお客さんの注文を聞いてから厨房の奥で野菜を刻む音がします。切り置きしないから野菜がジューシーで、ねぎなどは香りがいいですね。この音が私にとってご馳走のはじまり。

がつつり食べたときはモダン焼きです。鉄板でそばをしっかりと炒めて味付けした上に生地をかけて焼く



一番人気の「すじねぎ」1,100円。山芋の入ったふんわり生地と香り高いねぎ、すじ&こんにやくのベストな組み合わせに納得



道草

●八尾市恩智町1-151 恩智駅前ショッピングセンター内 ☎072-941-2050 10:00~15:00 木曜休

ので、すぐ香ばしい。家ではこまでやれませぬね。ビールを飲みたいときはすじこん入り。具材(すじ・こんにやく)は長時間煮込んでいて、軟らかくてピリつと辛い。これも家では無理かも。お嫁さんの喜代子さんはいつも楽しくうに働いているので、その理由を聞くと「お好み焼き店が子どもの頃からの夢。お金をためて自分の店を持つつもりが、結婚した夫の実家がお好み焼き店だった。すごい偶然(笑)。彼女の笑顔もお店の魅力で、ここでもったり過ごすのが私へのご褒美です。取材文・きむあつこ 写真 内池秀人

ヤオマニアの目尻が下がる初夏～夏のカレンダー

6.4(土)・5(日) 木村重成祭
●幸町第1公園

6月中旬頃まで アジサイ
●長瀬川沿い(安中町9丁目付近)
→雨に映える彩り豊かなアジサイが沿道300メートルに咲き誇る

6月下旬(未定) 八尾えだまめの掘り取り
●場所未定
→一般市民を対象に畑でえだまめを掘ってお持ち帰り。詳しくは八尾市HPで

6.30(木) 夏越の祓え 茅の輪くぐり
●八尾市内の神社各所
→上半期の最終日に無病息災を祈願する神事

7.16日(土)～31(日) 八尾商業まつり
●八尾市内の小売市場や商店街、専門店など
→期間中、市内の商店街や小売市場など、まつりのポスターやのぼりがついた参加店で買い物をすると金券が当たる抽選券を進呈
☎072-922-1181(八尾商工会議所)

7.30(土) 八尾バル
●近鉄八尾駅・JR八尾駅・河内山本駅周辺
→テーマは「枝豆」。詳細は八尾バルHPで

●河内音頭が生で聴けて、踊りも自由
河内音頭定期公演
→山城町一丁目第1公園 12:45～15:00

6.5(日) 美好家筆師匠
7.3(日) 大和家石勝師匠

●八尾市立歴史民俗資料館
5.22(日) 資料館歴史講座
「畠山氏と細川氏を渡り歩いた木沢長政」
→講師=馬部隆弘氏(大阪大谷大学)

6.3(金)～7.25(月) 展示「紙芝居と戦争」
6.18(土) 資料館歴史講座
「戦国時代 大和国にあった共和国」
→講師=田中慶治氏(葛城市歴史博物館)

7.10(日) 資料館歴史講座
「城郭からみた大阪府下の戦国時代と天下統一」
→講師=中西裕樹氏(高槻市立しろあと歴史館)
☎072-941-3601

●八尾市立しおんじやま古墳学習館
7.2(土) 国史跡指定50周年シンポジウム
「しおんじやま古墳の魅力と未来を考える(仮)」
→申し込みは6.1(水)から受け付け
☎072-941-3114

※会場はP11のMAPでお確かめください。イベント予定は変更になる場合があります。詳しくは八尾市観光協会まで☎072-997-6226

●安中新田会所跡旧植田家住宅
6.27(月)まで 企画展「ぼく、墨蹟(ぼくせき)」
5.28(土) 講座「八尾と今東光」
→講師=岡本俊樹氏(今東光資料館)
6.11(土)・12(日) 八尾再発見! 映像に見る八尾
6.26(日) 連続講座「水①」
7.2(土)～9.11(日) 企画展「植田家のお茶道具」
7.28(木) こどもガイド体験講座
7.31(日) 連続講座「水②」
☎072-992-5311

●今東光資料館
9.11(日)まで 企画展示
「東光が記した“八尾のブラジ”～小説 河内風土記から～」
→八尾の産産を代表するブラジにまつわる話を小説中の記述や当時の写真や資料と併せて紹介
☎072-943-3810



須飼秀和『Yaomania』表紙を一堂に。

Yaomaniaの「顔」である須飼秀和さんの表紙絵。その原画展が、今年開業35周年を迎えた西武八尾店で開催されます。今号も含め14点、その場所を印した地図や「表紙のことば」とともに展示され、7階のリブローでは須飼さんの画集なども販売されます。あなたのご近所の風景、お見逃しなく!

日程/5.27(金)～6.5(日) 時間/10:00～20:00(最終日～17:00)
会場/西武八尾店5階特設会場
主催/八尾市観光協会 西武八尾店
後援/八尾市



ざらりと並んだ過去13回の表紙絵の6枚。何の特集か覚えてますか?

「第1回 やお80”映画祭2016」レポート!

3.27(日)、アリオ八尾にて「第1回 やお80”映画祭2016」が開催された。オープニングセレモニーやテープカットの後、映画『鉄の子』の監督で、映画祭の審査員でもある福山功起(こうき)氏と主演女優の田畑智子さんによるトークショーが開催されました。



MOVIX八尾に場所を移し、全国から応募された107作品のうち、入選した80秒の映像作品16本(やお映画部門8本、フリー映画部門8本)を鑑賞。上映会に参加した一般の方も投票に加わりました。厳正なる審査の結果、各賞が発表! やお、フリー両部門の入選作品はMOVIX八尾にて、期間限定で一般上映の幕間に上映されます。

- やお映画部門賞→北林渚監督「カメレオンキャンデー」
 - フリー映画部門賞→渡部寿宣監督「春」
 - 最優秀俳優賞→林知明監督「way」(久保田康弘)
 - 八尾市長賞→内田雄太・西脇志保監督「選択」
- 80秒の中で表現されるさまざまな世界に、無限(∞)の可能性を感じました。八尾市観光協会主催の「八尾探(やおたん)」ツアーでは10名をご招待。「ミナミの帝王」の秋庭貞明監督とのツーショット撮影会や上映会を楽しんでいただきました。第2回もぜひ!

●Yaomania第15号(夏増刊号)は7月上旬発行 八尾の夏SPECIAL!

発行=一般社団法人八尾市観光協会
編集=株式会社140B 表紙絵=須飼秀和
デザイン=山崎慎太郎 印刷=図書印刷株式会社
※記事の情報は、2016年4月27日時点のものです。

パン屋は街の入り口だ⑩

高安町北 パン工房 U

味とボリュームでお客さんを驚ぶかみ!
太っ腹の店主が作るまごころパン。

近鉄高安駅から高安駅前商店会を東に歩いて3分。恩智川の手前にある「パン工房U」はパステルカラーのおしゃれな外観と明るい雰囲気の中、驚くのはパンのサイズだ。食パンと、菓子パンと、「ん!?!」と2度見してしまう大きさ。店主の石原優さんは「最初からこのサイズなので、小さくする勇気がないのかもしれない(笑)。やわらかい生地で大きめに作っている分、少々水分が抜けてもパンが固くなりたく、食べやすいんです。フランスパンもソフトな仕上がりなので年配のお客さんに喜ばれます」と。



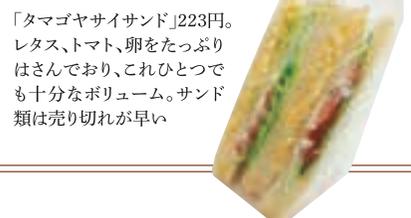
「ミニクロワッサン」260円。卵不使用のため卵アレルギーの人も食べられる。お子さんのおやつにどうぞ。12個入り、たっぷり量だ!



「明太子フランス」176円。明太子と北海道よつぱバターを塗り込んだ食事パン。端っこまでしっかり明太子味がする、満足の逸品



「レーズン食パン」260円。「採算度外視なのでお得かも」の店主の言葉どおり、レーズンがふんだんの人気NO.1食パン。リピーター多し



「タマゴヤサイサンド」223円。レタス、トマト、卵をたっぷりはさんでおり、これひとつでも十分なボリューム。サンド類は売り切れが早い



「あべかわもち」112円。もちもちした生地を揚げてきな粉を豪快にまぶしてある。本当にもちのようで、お茶請けにもオススメのうまさだ

近くで10年間店を構え、2年半前に自宅兼店舗のこの場所に移った。家賃などの経費が浮いた分、リーズナブルな価格を保っているという。「おいしいものをお手頃価格で、がモットーなんです」と気さくな笑顔で答える石原さんだが、パン職人を志したのは実は一度就職してからのこと。大学卒業後、就いた仕事が変わらず1年で退社。将来を悩んでいたとき、学生時代に手作りパン店でアルバイトをしていた頃の店長が独立したのを聞き、門を叩いたという。

「5年ほど修業し、32歳で自分の店

を持ちました。当初、パンの種類がなかなか増えなくて苦労しましたね」現在は約60種の商品が隙間なく並び、看板の「手づくりまごころのパン工房」どおり、ふんわり焼かれた「U」のパンには石原さんのボリュームのあるハートが込められている。取材・文・写真=内池秀人



「どれもおいしい!」ここのパンしか食べへんよ」という熱烈なファンや「偶然見つけて入りました」という子連れのお客さんなど、次々とやってくる

パン工房 U
●八尾市高安町北1-1-7
☎072-999-8825 6:00～21:00 日曜休